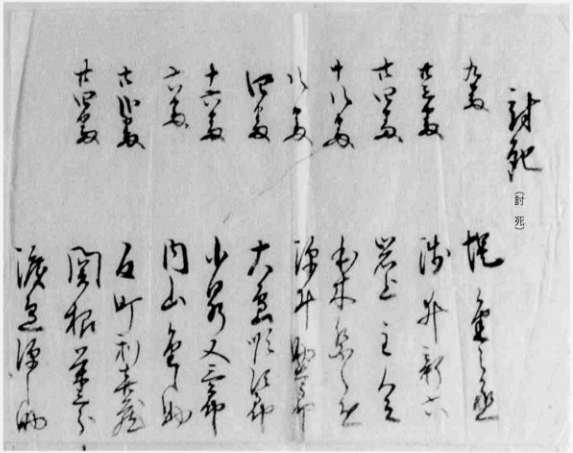
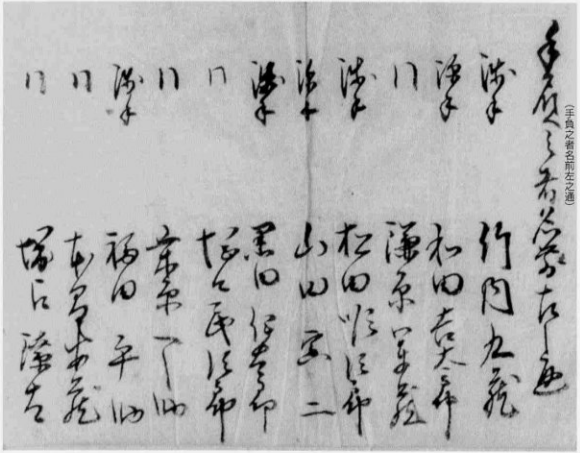
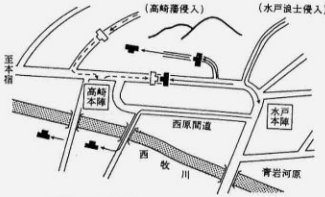
水戸浪士と下仁田戦争



（中　略）





下仁田戦争図（元治元年）

水戸浪士の通行順路（元治元年）
（数字は出発月日）

この史料は、下仁田戦争で討死・負傷した人名を書き上げたものです。幕末、水戸藩では佐幕派と尊王攘夷派が対立し、敗れた浪士たちは水戸天狗党を組織、尊皇攘夷を掲げ筑波山で挙兵して京都に上ろうとしました。それを阻止しようとする幕府の命令を受けた高崎藩が、元治元年(1864)11月現在の下仁田町下小坂で戦ったのが下仁田戦争です。水戸浪士の一行900余名と高崎藩士200余名が戦い、高崎藩は36名の戦死者を出し敗走しました。この史料には、討死した32名の氏名と浅手・深手を負った11名の氏名が書かれています。その後、天狗党は信濃国の和田峠で松本藩や諏訪藩と激しく戦い勝利を得た後、木曽路を通って京都を目指しましたが、越前国敦賀付近で加賀藩に敗れ降伏しました。下仁田町には、「高崎藩士戦死の碑」及び「水戸烈士弔魂碑」がそれぞれ建立されています。この史料は、旧高崎藩士の鈴木家に伝わるものです。

（『群馬県史』通史編４より）

（参考資料）『群馬県史』通史編４　694～708頁